

<英米語学科>

英米語学科では、建学の理念に基づき、高度な言語運用能力を涵養するとともに、専攻言語圏の様々な事柄に関する知識を教授することで、豊かな教養を有し国際社会に貢献し得る人材の育成を教育の目標とする。その上で、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質を備えた人材を育成するため、教育課程に関する方針を以下の通り設定し、これに基づいて体系的にカリキュラムを編成する。

1. 教育内容

(1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」を修得するため、以下のカリキュラムを提供する。

1 年次から 2 年次に「基盤教育科目」として「基礎演習 I、II」「キャリアデザイン I (基礎)」を配置する。「基礎演習 I、II」では大学での学び(特に教養科目、研究科目、演習科目)をより深化させ、効果的に機能させるために「アカデミック・ライティング」「デジタル・シチズンシップ」「クリティカル・リーディング」「数的思考」及び「キャリアデザイン」に関する能力を修得するための機会を提供する。

「キャリアデザイン I (基礎)」では過去・現在・未来に繋がる個人のキャリア形成を学問と社会との接続の視点から継続的に学ぶ力(生涯学習力)を涵養するカリキュラムを編成する。また、各年次に「外国語科目(選択外国語科目)」及び「教養科目」を配置し、12 程度の言語のほか、人文科学、社会科学、自然科学分野などの幅広い学問領域をバランス良く学ぶカリキュラムを提供する。

(2) 「高度な英語の運用能力」を修得するため、各年次に「英語科目」を配置し、1 年次から 2 年次では「Freshman English」、「Foundational Literacies: Reading & Writing」、「English for Academic Purposes」、「Media English」、「Academic Literacies: Reading/Writing」などによりアカデミック英語を集中的かつ総合的に学ぶカリキュラムを提供する。

さらに、3 年次から 4 年次では「English for Liberal Arts」及び「英語専門講読」などにより「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」ことに焦点を移し、実践的かつ専門的な英語の運用能力を高めるカリキュラムを提供する。また、これと連動する形で学科指定研究科目のなかに「英語で行われる研究科目」を設け、専門領域の知識と高度な英語運用能力をいっそう有機的に結びつけるカリキュラムを編成する。

(3) 「言語そのものに対する深い洞察及び英語圏の歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」を修得するため、各年次に「導入」「基礎」「発展」「英語による研究科目」の「学科指定研究科目」を配置する。同時に「英語研究」「英語教育研究」「英語圏地域研究」の 3 コースよりいずれか 1 コースを選択して「基礎」「発展」「英語による研究科目」を履修することにより、専門領域に関連した知識を段階的かつ体系的に修得するカリキュラムを提供する。また、学科内の研究コース、あるいは学科の枠を超えて幅広く学ぶことができるようカリキュラムを編成する。

(4) 「グローバル社会の一員として世界に貢献するための力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」を修得するため、「学科指定研究科目」に加えて全学科共通の「研究科目(その他)」を設け、多角的な視点と多面的な知識を養う。その上で、本学での学びの成果を可視化する機会として、3 年次から 4 年次に「演習科目」を配置する。「演習科目」は「研究演習」と「応用演習」からなる。「研究演習」では学術的な観点から研究成果をまとめる。「応用演習」では、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げ学習成果をまとめる。「研究演習」の成果は、4 年次に「卒業研究」としてまとめることができる。

2. 教育方法

- (1) オンライン授業を教育課程に応じ効果的に取り入れる。
- (2) 自律学習を促し、学修成果の定着をはかるため、主に専門科目にアクティブラーニングの手法を効果的に取り入れる。
- (3) 3年次より少人数の演習科目を必修化し、新たな価値の創造を可能にする対話や議論重視の教育を実施する。
- (4) 外国語科目を中心に少人数教育を実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。また、1年次からアカデミック英語を集中的かつ総合的に学ぶことにより、説得力があり筋道だったプレゼンテーションやライティングができるようにする。
- (5) 海外での体験学習(留学)を積極的に推奨する。
- (6) 準備学修(予習・復習)の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。
- (7) CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
- (8) 教員のオフィスアワーを設け、学生が自由に教員に授業内容の質問や履修計画、就職相談などをできるようにする。
- (9) 授業アンケートを実施し、その結果に対してフィードバックする。

3. 学修成果の評価方法

各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ明示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、検定試験取得状況等を定期的に確認する。

<アジア言語学科>

アジア言語学科では、建学の理念に基づき、高度な言語運用能力を涵養するとともに、専攻言語圏の様々な事柄に関する知識を教授することで、豊かな教養を有し国際社会に貢献し得る人材の育成を教育の目標とする。その上で、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質を備えた人材を育成するため、教育課程に関する方針を以下の通り設定し、これに基づいて体系的にカリキュラムを編成する。

1. 教育内容

- (1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」を修得するため、以下のカリキュラムを提供する。

1年次から2年次に「基盤教育科目」として「基礎演習 I、II」「キャリアデザイン I (基礎)」を配置する。「基礎演習 I、II」では大学での学び(特に教養科目、研究科目、演習科目)をより深化させ、効果的に機能させるために「アカデミック・ライティング」「デジタル・シチズンシップ」「クリティカル・リーディング」「数的思考」及び「キャリアデザイン」に関する能力を修得するための機会を提供する。

「キャリアデザイン I (基礎)」では過去・現在・未来に繋がる個人のキャリア形成を学問と社会との接続の視点から継続的に学ぶ力(生涯学習力)を涵養するカリキュラムを編成する。また、各年次に「外国語科目(選択外国語科目)」及び「教養科目」を配置し、12程度の言語のほか、人文科学、社会科学、自然科学分野などの幅広い学問領域をバランス良く学ぶカリキュラムを提供する。
- (2)-1「専攻言語(中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語)の高度な運用能力」を修得するため、各年次に「地域言語科目」を配置する。1年次から2年次では、正確な発音、文法、語彙、会話表現等の専攻言語の基礎を徹底的に学ぶためのトレーニング科目により、総合的な専攻語の運用能力を養うカリキュラムを提供する。3年次から4年次では、スピー

チャプレゼンテーションさらには通訳・翻訳・討論等を取り入れた実践科目や専攻言語地域のさまざまなテーマを扱うコンテンツベース科目により、より高度で実践的な専攻言語運用能力を養うカリキュラムを提供する。

(2)-2「国際社会の一員として求められる実践的な英語運用能力」を修得するため、1年次から2年次では「Freshman English」、「Sophomore English」、「アカデミック英語」、「総合英語」、「Media English」などの科目を通じて、基盤となる英語力を身につけるカリキュラムを提供する。また、3年次から4年次では、さまざまなテーマについて英語で学ぶ「English for Multicultural Communication」などの科目を通じて、実践的な英語運用能力を養うとともに、グローバル社会における課題を解決するための思考力や協働力を育成するカリキュラムを提供する。

(3)「専攻語及び専攻語圏をはじめとするアジアの歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」を修得するため、各年次に「導入」「基礎」「発展」の「専攻指定研究科目」を配置する。同時に「言語研究(中国語専攻、韓国語専攻)／言語文化研究(インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻)」及び「地域文化研究(中国語専攻)／地域社会研究(韓国語専攻、インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻)」に区分された研究コースよりいずれか1コースを選択して指定の研究科目を履修することにより、専門領域に関連した知識を段階的かつ体系的に修得するカリキュラムを提供する。また、専攻内の研究コース、あるいは学科専攻の枠を超えて幅広く学ぶことができるようカリキュラムを編成する。

(4)「グローバル社会で専門性を発揮して活躍するための力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」を修得するため、「専攻指定研究科目」に加えて全学科共通の「研究科目(その他)」を設け、多角的な視点と多面的な知識を養う。その上で、本学での学びの成果を可視化する機会として、3年次から4年次に「演習科目」を配置する。「演習科目」は「研究演習」と「応用演習」からなる。「研究演習」では学術的な観点から研究成果をまとめる。「応用演習」では、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げ学習成果をまとめる。「研究演習」の成果は、4年次に「卒業研究」としてまとめることができる。

2. 教育方法

(1)オンライン授業を教育課程に応じ効果的に取り入れる。

(2)自律学習を促し、学修成果の定着をはかるため、主に専門科目にアクティブラーニングの手法を効果的に取り入れる。

(3)3年次より少人数の演習科目を必修化し、新たな価値の創造を可能にする対話や議論重視の教育を実施する。

(4)外国語科目を中心に少人数教育を実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。また、1年次からアカデミック英語を集中的かつ総合的に学ぶことにより、説得力があり筋道だったプレゼンテーションやライティングができるようにする。

(5)海外での体験学習(留学)を積極的に推奨する。

(6)準備学修(予習・復習)の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。

(7)CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。

(8)教員のオフィスアワーを設け、学生が自由に教員に授業内容の質問や履修計画、就職相談などをできるようにする。

(9)授業アンケートを実施し、その結果に対してフィードバックする。

3. 学修成果の評価方法

各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、検定試験取得状況等を定期的に確認する。

<イベロアメリカ言語学科>

イベロアメリカ言語学科では、建学の理念に基づき、高度な言語運用能力を涵養するとともに、専攻言語圏の様々な事柄に関する知識を教授することで、豊かな教養を有し国際社会に貢献し得る人材の育成を教育の目標とする。その上で、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質を備えた人材を育成するため、教育課程に関する方針を以下の通り設定し、これに基づいて体系的にカリキュラムを編成する。

1. 教育内容

(1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」を修得するため、以下のカリキュラムを提供する。

1 年次から 2 年次に「基盤教育科目」として「基礎演習 I、II」「キャリアデザイン I (基礎)」を配置する。「基礎演習 I、II」では大学での学び(特に教養科目、研究科目、演習科目)をより深化させ、効果的に機能させるために「アカデミック・ライティング」「デジタル・シチズンシップ」「クリティカル・リーディング」「数的思考」及び「キャリアデザイン」に関する能力を修得するための機会を提供する。

「キャリアデザイン I (基礎)」では過去・現在・未来に繋がる個人のキャリア形成を学問と社会との接続の視点から継続的に学ぶ力(生涯学習力)を涵養するカリキュラムを編成する。また、各年次に「外国語科目(選択外国語科目)」及び「教養科目」を配置し、12 程度の言語のほか、人文科学、社会科学、自然科学分野などの幅広い学問領域をバランス良く学ぶカリキュラムを提供する。

(2)-1「専攻言語(スペイン語、ブラジル・ポルトガル語)の高度な運用能力」を修得するため、各年次に「地域言語科目」を配置する。1 年次から 2 年次では、専攻言語の基礎を徹底的に学ぶためのトレーニング科目により、総合的な専攻語の運用能力を養うカリキュラムを提供する。3 年次から 4 年次では、通訳・翻訳・討論・スピーチ等を取り入れた実践科目や国内外のさまざまなテーマを扱うコンテンツベース科目により、より高度で実践的かつ専門的な言語の運用能力を養うカリキュラムを提供する。

(2)-2「国際社会の一員として求められる実践的な英語運用能力」を修得するため、1 年次から 2 年次では「Freshman English」、「Sophomore English」、「アカデミック英語」、「Media English」などの科目を通じて、基盤となる英語力を身につけるカリキュラムを提供する。また、3 年次から 4 年次では、さまざまなテーマについて英語で学ぶ「English for Multicultural Communication」などの科目を通じて、実践的な英語運用能力を養うとともに、グローバル社会における課題を解決するための思考力や協働力を育成するカリキュラムを提供する。

(3) 「専攻語及び専攻語圏をはじめとするイベロアメリカの歴史・文化・社会に関する専門知識」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」を修得するため、各年次に「導入」「基礎」「発展」の「専攻指定研究科目」を配置する。同時に「言語文化研究」及び「地域社会研究」に区分された研究コースよりいずれか1コースを選択して指定の研究科目を履修することにより、専門領域に関連した知識を段階的かつ体系的に修得するカリキュラムを提供する。また、専攻内の研究コース、あるいは学科専攻の枠を超えて幅広く学ぶことができるようカリキュラムを編成する。

(4) 「グローバル社会で専門性を発揮して活躍するための力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」を修得するため、「専攻指定研究科目」に加えて全学科共通の「研究科目(その他)」を設け、多角的な視点と多面的な知識を養う。その上で、本学での学びの成果を可視化する機会として、3 年次から 4 年次に「演習科目」を配置する。「演習科目」は「研究演習」と「応用演習」からなる。「研究演習」では学術的な観点から研究成果をまとめる。「応用演習」では、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げ学習成果をまとめる。「研究演習」の成果は、4 年次に「卒業研究」としてまとめることができる。

2. 教育方法

- (1) オンライン授業を教育課程に応じ効果的に取り入れる。
- (2) 自律学習を促し、学修成果の定着をはかるため、主に専門科目にアクティブラーニングの手法を効果的に取り入れる。
- (3) 3年次より少人数の演習科目を必修化し、新たな価値の創造を可能にする対話や議論重視の教育を実施する。
- (4) 外国語科目を中心に少人数教育を実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。また、1年次からアカデミック英語を集中的かつ総合的に学ぶことにより、説得力があり筋道だったプレゼンテーションやライティングができるようにする。
- (5) 海外での体験学習(留学)を積極的に推奨する。
- (6) 準備学修(予習・復習)の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。
- (7) CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
- (8) 教員のオフィスアワーを設け、学生が自由に教員に授業内容の質問や履修計画、就職相談などをできるようにする。
- (9) 授業アンケートを実施し、その結果に対してフィードバックする。

3. 学修成果の評価方法

各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、検定試験取得状況等を定期的に確認する。

<国際コミュニケーション学科>

国際コミュニケーション学科では、建学の理念に基づき、高度な言語運用能力を涵養するとともに、専攻言語圏の様々な事柄に関する知識を教授することで、豊かな教養を有し国際社会に貢献し得る人材の育成を教育の目標とする。その上で、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質を備えた人材を育成するため、教育課程に関する方針を以下の通り設定し、これに基づいて体系的にカリキュラムを編成する。

1. 教育内容

(1) 「より良い人生とより善き社会の実現に向けて、生涯学び続けることができる能力」と、「多様な学問領域にわたる幅広い教養」を修得するため、以下のカリキュラムを提供する。

1年次から2年次に「基盤教育科目」として「基礎演習 I、II」「キャリアデザイン I (基礎)」を配置する。「基礎演習 I、II」では大学での学び(特に教養科目、研究科目、演習科目)をより深化させ、効果的に機能させるために「アカデミック・ライティング」「デジタル・シチズンシップ」「クリティカル・リーディング」「数的思考」及び「キャリアデザイン」に関する能力を修得するための機会を提供する。

「キャリアデザイン I (基礎)」では過去・現在・未来に繋がる個人のキャリア形成を学問と社会との接続の視点から継続的に学ぶ力(生涯学習力)を涵養するカリキュラムを編成する。また、各年次に「外国語科目(選択外国語科目)」及び「教養科目」を配置し、12程度の言語のほか、人文科学、社会科学、自然科学分野などの幅広い学問領域をバランス良く学ぶカリキュラムを提供する。

(2) 「高度な英語の運用能力」を修得するため、各年次に適切なレベルの「英語科目」を配置し、1年次から2年次では「English for International Communication I、II」「Reading/Writing」「Media English」「Advanced Reading」などにより、コミュニケーションに重点をおいた英語を集中的かつ総合的に学ぶカリキュラムを提供する。さら

に、3年次から4年次では、「English for International CommunicationⅢ」などにより、コミュニケーションを題材としたさまざまなテーマを英語で学ぶ、実践的かつ専門的な英語の運用能力を高めるカリキュラムを提供する。

※外国人留学生には、入学時の語学力に応じたレベルの英語科目及び、日本語総合講座などの日本語科目を提供する。

(3)「多文化共生社会に求められるコミュニケーション能力及びグローバル社会の一員として世界に貢献するための教養と問題解決力」と、「異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢」を修得するため、各年次に「導入」「基礎」「発展」の「専攻指定研究科目」を配置する。同時に、「コミュニケーション研究(国際コミュニケーション専攻、国際ビジネスキャリア専攻)」、「国際・日本研究(国際コミュニケーション専攻)」及び「国際ビジネス研究(国際ビジネスキャリア専攻)」コースよりいずれか1コースを選択して指定の研究科目を履修することにより、専門領域に関連した知識を段階的かつ体系的に修得するカリキュラムを提供する。また、専攻内の研究コース、あるいは学科専攻の枠を超えて幅広く学ぶことができるようカリキュラムを編成する。

(4)「グローバル社会において学修者自身及び他者のキャリア形成を構築し寄与する力」、「論理的かつ批判的な思考力」及び「社会的な課題の発見と解決に貢献する力」を修得するため、「専攻指定研究科目」に加えて全学科共通の「研究科目(その他)」を設け、多角的な視点と多面的な知識を養う。その上で、本学での学びの成果を可視化する機会として、3年次から4年次に「演習科目」を配置する。「演習科目」は「研究演習」と「応用演習」からなる。「研究演習」では学術的な観点から研究成果をまとめる。「応用演習」では、実践的かつ幅広い観点から興味・関心を掘り下げ学習成果をまとめる。「研究演習」の成果は、4年次に「卒業研究」としてまとめることができる。

2. 教育方法

(1)オンライン授業を教育課程に応じ効果的に取り入れる。

(2)自律学習を促し、学修成果の定着をはかるため、主に専門科目にアクティブラーニングの手法を効果的に取り入れる。

(3)3年次より少人数の演習科目を必修化し、新たな価値の創造を可能にする対話や議論重視の教育を実施する。

(4)外国語科目を中心に少人数教育を実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。また、1年次からアカデミック英語を集中的かつ総合的に学ぶことにより、説得力があり筋道だったプレゼンテーションやライティングができるようにする。

(5)海外での体験学習(留学)を積極的に推奨する。

(6)準備学修(予習・復習)の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。

(7)CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。

(8)教員のオフィスアワーを設け、学生が自由に教員に授業内容の質問や履修計画、就職相談などをできるようにする。

(9)授業アンケートを実施し、その結果に対してフィードバックする。

3. 学修成果の評価方法

各授業科目における達成度の評価は、シラバス等によりあらかじめ示した成績評価方法・基準に基づき、客観的かつ厳格に行う。また、各学生の授業科目の履修状況、成績取得状況、検定試験取得状況等を定期的に確認する。